

平成 30 年度 法奥小学校 6 年生「森林・林業・木材産業体験学習」

三八上北森林管理署

十和田市立法奥小学校 6 年生が、9 月 21 日(金)・25 日(火)・10 月 24 日(水)の 3 日間にわたって、森林・林業・木材産業体験学習を行いました。

<事前授業>

1 日目(9/21)は、森林管理署の職員が先生となり、教室で、木を伐り利用することと環境問題との関わりについて学習しました。

林業のおおまかな流れは農業と似ているけれど「サイクルは 1 周約 50～60 年かかる」という話をすると、子どもたちは時間の長さにとっても驚いていました。また、伐期に達し、利用可能な人工林が多い日本では、適切な伐採・更新により光合成を活発にすることで、より多くの二酸化炭素を吸収させることができること、木材は、木を植えて育てることですずっと使える再生可能資源であることなどを説明しました。事前アンケートの回答では、「木を伐ることは森林の木が減るから悪いこと」というイメージを持っていた子どもたちが多い中、適切に伐って利用することの重要性を理解してもらえたのではないかと思います。



授業の様子



柱を持ってみよう！

<間伐現場・木材加工センター見学>

2 日目(9/25)は、高性能林業機械を活用した間伐現場と木材加工センターへ見学に行きました。

午前中は、間伐作業中の国有林へ行き、事業受注者である野辺地林業(有)の社員によるチェーンソーでの伐採・枝払い・造材作業と、高性能林業機械(プロセッサ)での枝払い・造材作業を見学しました。伐倒により目の前で木が倒れると、子どもたちから歓声や拍手が起こりました。さらに、チェーンソー等林業で使用する道具について説明を受け、実際に持って重さを体感したり、プロセッサの操縦席に座らせていただい



造材作業を見学



ヘルメットをかぶってみよう！

たりしました。子どもたちからも「仕事のやりがいはい？」「木を伐る作業はどれくらいの期間で上手になりますか？」「この仕事を選んだきっかけは？」などの質問が寄せられ、一つ一つ丁寧に答えていただきました。

午後は、上北森林組合木材加工センターへ移動し、センターの職員による案内で端材等を利用した木材乾燥用ボイラー、丸太の選別、ラインによって柱や板といった製品を作り出す様子を見学しました。子どもたちは、木材を 1 週間もかけて乾燥させること、木材の移動や加工で様々な機械が活躍している様子に驚いていました。



杭に使っている樹種は何だ？



コンピュータ制御による製材を見学

＜木工体験・モデル住宅見学＞

3 日目(10/24)は、(有)岩木建設で木工体験とモデルハウス(いわ木の家)の見学を通じ、山から切り出された木材が実際に使用されている様子を学習しました。

まず、大工の方々による指導を受けながら、端材を利用したペン立て作りとカンナがけの木工体験を行いました。慣れない作業に苦戦する子どももいれば、将来、大工を目指していると手慣れた様子の子もいて、和気あいあいと取り組んでいました。その後は、モデルハウスの中を 20 分ほど自由に探検し、社長はじめ社員の皆さんに、様々な質問に答えていただきました。子どもたちは、「何種類の木材が使われているのか？」「1 軒の家を建てるのにどれくらいかかるのか？(期間・価格)」「大工になるためにはどのような学校に行けばよいか？」など、熱心に質問していました。



カンナがけ上手にできるかな？



自分の作品を手に、はいチーズ！

この 3 日間の学習によって、循環資源としての森林の大切さと共に、林業・木材加工・建築という仕事の役割や魅力、大変さなどを伝えることができたのではないかと思います。なお今回の学習では、林業事業体及び企業の方々に、お忙しい中快くご協力いただきました。誠にありがとうございました。